

もうひとつの忠臣蔵

吉良上野介義央公の実像 ―其の三―

西尾市文化財保護委員長
吉良公史跡保存会会長

颯田 洪

吉良上野介義央公の本
当の人物像は、現代のバ
ワハラ問題の根幹につな
がることも多くあります。

本誌では、吉良公史跡
保存会の颯田洪会長が執
筆くださいました原稿を、
3回にわたり掲載いたし
ます。今月はその3回目、
最終回です。

今日でも宮中の儀式は
厳粛に挙行されます。江
戸時代も今日以上に儀式
は厳粛であったと想像し
ます。奉仕者を指導して
この行事を成功させるの
が、御馳走人の指南役で
ある高家の役目です。失
敗したら自らの責任とな
ります。
浅野長矩は勅使御馳走
人役は二度目の役であり、
むしろ経験者であります。

幕府が下した両者に対す
る裁定はご承知のとおり
です。浅野の切腹、吉良
はお咎めなしを片手落ち
とする赤穂藩士の一部の
浪人が翌元禄十五年十二
月十四日深夜に吉良邸を
襲撃するという残酷な事
件で義央は討たれてしま
いました。

この討入は色々といわ
れています。罪なき人
を大人数で討ち殺したこ
とはテロではないかとい
われています。そして義
央の孫義周は、「仕方な
届き」につき領地召し上
げの上、諏訪へ配流とい
う冤罪をうけてしまいま
した。悲運な義周は討入
りでおった傷や持病で衰
弱し三年後に二十一歳の
短い生涯をとじられま
した。鎌倉時代から続く名

門吉良家は絶家となりま
した。この事件の最大の
犠牲者といわざるを得ま



せん。

吉良家が断絶後の家臣
は、国内各地に流浪しま
した。そのなかで今日で
も伝えられる話がありま
す。伊那市美篤青島の観
音堂に旧臣が僧になり住
んでいました。死を間近
にして村人に自分の身上
を語り、討入り当夜に赤
穂浪士に尻を一太刀浴び

たことを告げ、手持ちの
金を村の役に立ててほし
いと渡しました。村では
僧の遺志を継ぎ田畑を購
入し、その年貢を換金し
て公用に役立てたといわ
れ、今日でも観音堂を守
り、毎年十二月十四日の
義央公毎歳忌には必ず多
くの方々が参拝されます。
焼津市方ノ上のお堂に
は、閻魔様が安置され、
願主は吉良家旧臣といわ
れます。

村の伝えでは、一人の
侍がお堂の世話をするよ
うになったが、その侍は
吉良家の旧臣で、亡くな
った人々を弔うために閻
魔像の作成を発願して一
生懸命働いたが、首まで
しかできず再度働きな
がらも目標に達成できず、
閻魔像の首を背負って江
戸の町を歩いて寄付を募
り閻魔像を完成したとい
う逸話があります。
この二つの話がかつて
の同僚を弔うことは、主
君義央公と不運な義周公
を供養する意味と思われ
ます。伊那市の山を越せ

ば諏訪であります。焼津
市の閻魔像もなぜ閻魔像
であるか、無言の幕府へ
の訴えではないでしょう
か。閻魔像の頭部には
「享保三年 南無阿弥陀
佛」と記してあるそうで
す。

吉良公史跡保存会が設
立したのは、昭和七年で
あります。日本中が忠臣
愛国を掲げる時代です。
赤穂では、大石は神様
なっています。先輩の
方々の勇氣と郷土愛に敬
服しています。村長を会
長にして村を上げて義央
公の顕彰に立ち上がった
ことは、いかに領民に慕
われていたかのあらわれ
ではないでしょうか。

領地に帰ると、駄馬に
乗って領民と親しく話し
合った赤馬伝説は今日で
も小学校の学芸会に吉良
さんを演じる土地柄のあ
らわれです。
労使問題の最中、参考
になれば幸いです。
(おわり)
イラスト・木村武司